

科目名	看護形態機能論 I	単位数	1	時間数	30
講師名	専任教員 病院看護師	実務経験	有	履修年次	1年
科目概要	わたしたちの体は外や内の変化に対応して安定を維持する方法を備えている。からだの安定性が保たれていれば、からだを作っている細胞一つ一つがその細胞の機能を果たし、その細胞が属する組織や器官が目的とするはたらきを全うできる。そのためには、からだの内部にどんな条件が必要か学ぶ。				
学習目標	1. 何ための生活行動か理解する。 2. 恒常性維持のための物質の流通について理解する。				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 何のための生活行動か 1) 生きているとはどういうことか 2) 個体を外界から区別するもの 3) 内部環境の恒常性 (1) 体液の分類と量 (2) 体液の電解質 (3) 血漿のpH (4) 動脈血の酸素分圧 (5) 血漿の糖分 (6) 体温 4) 生命維持と生活行動	講義 小テスト	14H	専任教員	
	筆記試験	試験	1H		
	2. 恒常性維持のための物質の流通 1) 血液 (1) 血液の恒常性維持 (2) 物質の運搬 (3) 侵入物に対する防衛 (4) 血液凝固 2) 血管・リンパ管・脾臓 3) 循環	講義 小テスト	14H	病院 看護師	
	筆記試験	試験	1H		
評価方法	筆記試験 ①と②の平均値を評点とする。 ①何のための生活行動か ②恒常性維持のための物質の流通 各100点				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
参考文献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会) 看護につながる形態機能学 (メヂカルフレンド社)				

科目名	看護形態機能論Ⅱ	単位数	1	時間数	30
講師名	専任教員 病院看護師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	<p>わたしたちの日々の生活行動は、外部環境からの刺激をとらえ適切な反応をして身の安全を図っている。また、刻々と変化する内部環境の状態をとらえ、その変化に反応して恒常性を維持している。その仕組みを学ぶ。</p> <p>からだが動く仕組みを学ぶ。からだ全体を移動させること、あるいはからだの一部を動かすことができなくなったら、わたしたちの生活はどうか考える。</p>				
学習目標	<p>1. 恒常性維持のための調節機構を理解する。</p> <p>2. からだが動く仕組みを理解する。</p>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<p>1. 恒常性維持のための調節機構</p> <p>1) 神経性調節</p> <p>(1) 受容器</p> <p>(2) 中枢神経</p> <p>(3) 末梢神経</p> <p>(4) 情報伝達</p> <p>2) 液性調節</p> <p>(1) ホルモンの作用機序</p> <p>(2) ホルモン分泌の調節</p> <p>(3) 恒常性維持のためのホルモンの働き</p> <p>3) ストレスと恒常性維持</p>	講義 小テスト	18H	病院 看護師	
	筆記試験	試験	1H		
	<p>2. 動く</p> <p>1) 骨の形態機能についてわかる</p> <p>2) 骨格筋の構造・作用・神経支配についてわかる</p> <p>3) 筋の収縮についてわかる</p> <p>4) 上肢の骨格と筋・その運動についてわかる</p> <p>5) 体幹の骨格と筋についてわかる</p> <p>6) 頭頸部の骨格と筋についてわかる</p> <p>7) 下肢の骨格と筋・その運動についてわかる</p>	講義	10H	専任 教員	
	筆記試験	試験	1H		
評価方法	<p>筆記試験 ①と②の平均値を評点とする。</p> <p>①恒常性維持のための調節機構 ②動く 各 100点</p>				
テキスト	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)</p>				
参考文献	<p>看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会)</p>				

科目名	看護形態機能論Ⅲ	単位数	1	時間数	30
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目概要	人間が生きていくために必要な栄養摂取器官としての消化器系の構造と機能を学ぶ。また、生きていくために欠かせない息をするという呼吸器系の構造と機能を学ぶ。そして、トイレに行くという排泄経路としての役割だけでなく、人体の水・電解質バランスの調節をする腎・泌尿器系を学ぶ。				
学習目標	1. 消化器系の形態と機能を理解する 2. 呼吸機能に関する器官の構造と機能を理解する 3. 腎・泌尿器・男性生殖器の形態と機能を理解する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	専任教員
	1. 食べる 1) 食欲 2) 食行動 3) 咀嚼し味わう 4) 飲み込む 5) 消化と吸収 6) 何をどれだけ食べるか	講義 小テスト グループワーク 視聴覚教材	12H	筆記試験	
	筆記試験	試験	1H		
	2. 息をする 1) 息を吸う・息を吐く 2) ガス交換 3. トイレに行く 1) 排尿 (1) 尿意 (2) 排尿 (3) 尿の生成 (4) 体液量調節の機構 2) 排便 (1) 便意 (2) 排便	講義 小テスト グループワーク 視聴覚教材	16H	筆記試験	
筆記試験	試験	1H			
評価方法	筆記試験 ①と②の平均値を評点とする。 ① (1. 食べる・2. 息をする) ②トイレに行く 各 100点				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)				
参考文献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会)				

科目名	看護形態機能論Ⅳ	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目概要	わたしたちはふだん、からだを意識せずにくらしている。この科目では、話す・聞く、眠る、お風呂に入るといったことがどんな意味があるのか、またその仕組みを学ぶ。そして、人間は子孫を残す能力が備わっている。その仕組みとして、遺伝子、ホルモン、出産、性生殖器について学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚器系の形態と機能を理解する</li> <li>2. 眠りの意味とそれに関わる器官の形態と機能を理解する</li> <li>3. お風呂に入る意味、皮膚の機能を理解する</li> <li>4. 生殖について、遺伝子、ホルモン、出産、性生殖器の形態と機能を理解する</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 話す・聞く <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 声を出す 鼻咽喉の構造・機能</li> <li>2) 聞く 耳の構造・機能</li> <li>3) 眠る 目の構造・機能</li> </ol> </li> <li>2. お風呂に入る <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 垢を落とす</li> <li>2) 皮膚と付属物</li> <li>3) 皮膚と粘膜</li> <li>4) 温まる</li> </ol> </li> <li>3. 子どもを生む <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 男と女</li> <li>2) 遺伝子組み換え</li> <li>3) 性交と受精</li> <li>4) 生殖を支えるホルモン</li> </ol> </li> </ol>	講義	14H	専任教員	
評価方法	筆記試験 100点			1H	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院）				
参考文献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ（日本看護協会出版会）				

科目名	看護病態論総論	単位数	1	時間数	30
講師名	病院医師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	病態の基礎となる病因と病変の特徴を理解する。				
学習目標	1. 病理学の概念について理解する 2. 病気の原因と変化について理解する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 病理学概論	講義	1H	病院 医師	
	2. 細胞・組織とその障害		2H		
	3. 再生と修復		1H		
	4. 循環障害		3H		
	5. 炎症		3H		
	6. 感染症		3H		
	7. 免疫とアレルギー		4H		
	8. 代謝異常		2H		
	9. 老化と老年病		1H		
	10. 新生児の病理		1H		
	11. 先天異常		1H		
	12. 腫瘍		6H		
	13. 生命の危機		1H		
評価方法	筆記試験100点				1H
テキスト	カラーで学べる病理学（ヌーベルヒロカワ）				
参考文献	NEWエッセンシャル病理学（医歯薬出版）				

科目名	看護病態論 脳神経・感覚器	単位数	1	時間数	30
講師名	病院医師 専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目概要	看護病態論では、各器官に障害が起きた時、どのような状態になるかを理解し、回復を助けるためにはどうすればよいのかを学ぶ。この科目では、脳神経系、感覚器系の代表的な疾患の原因、病態生理、症状、検査、治療、について学ぶ。				
学習目標	1. 脳神経系の主な疾患の病態と検査・治療について理解する 2. 感覚器系の主な疾患の病態と検査・治療について理解する				
授業計画	学習内容		授業方法	時間	担当
	1. 脳神経系 1)クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、慢性硬膜下出血、脳の感染症、症候性てんかん 正常圧水頭症の病態生理、症状、検査、治療。		講義	8H	病院医師
	筆記試験			1H	
	2) ①ALS、神経・筋疾患の病態生理、症状、検査、治療。		講義	2H	病院医師
	②パーキンソン病、認知症（アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症）など脳血管疾患、の病態生理、症状、検査、治療。		講義	3H	病院医師
	確認テスト			2H	専任教員
	筆記試験			1H	病院医師
	2. 感覚器系 難聴、メニエール病など 緑内障、白内障、網膜症など 皮膚炎、蕁麻疹、腫瘍、褥瘡などの病態生理、症状、検査、治療。		講義	12H	病院医師
筆記試験			1H		
評価方法	筆記試験 ①と②の平均値を評点とする。 ①脳神経系（1. くも膜下出血～ 2. ①ALS、②パーキンソン病～） ②感覚器系（1. 眼科 2. 皮膚科 3. 耳鼻科） 各100点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7]	脳・神経	(医学書院)		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [12]	皮膚	(医学書院)		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13]	眼	(医学書院)		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14]	耳鼻咽喉	(医学書院)		
参考文献					

科目名	看護病態論 循環器・呼吸器	単位数	1	時間数	30
講師名	病院医師 専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	循環器系、呼吸器系の主な病気の成り立ちと検査・治療について学ぶ。この系統の器官は、密接に協力しながら生命維持のために機能しているため、病態や症状などについて関連が大きい。代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。				
学習目標	1. 主な循環器系疾患の成り立ちと症状・検査・治療を理解する 2. 主な呼吸器系疾患の成り立ちと症状・検査・治療を理解する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 循環器疾患の成り立ちと症状、検査、治療 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧の異常 4) 不整脈 5) 弁膜症 6) 先天性心疾患 7) 動脈系疾患	講義	14H	病院医師	
	筆記試験	試験	1H		
	2. 呼吸器系疾患の成り立ちと症状、検査、治療 1) 呼吸器の構造と機能の復習	確認テスト	1H	専任教員	
	2) 感染症 3) 間質性肺炎 4) 気道疾患 5) 肺腫瘍 6) 肺血栓塞栓症 7) 胸膜、縦膜、横隔膜の疾患 8) 呼吸不全	講義	11H	病院医師	
	9) 疾患の成り立ちと症状、検査、治療まとめ	確認テスト	2H	専任教員	
	筆記試験	試験	1H	病院医師	
評価方法	筆記試験 ①と②の平均値を評点とする。 ①循環器系 ②呼吸器系 各100点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院)				
参考文献	瀬戸信二著 『JUN ブックス循環器疾患ナーシング』 (医学書院) 長谷川素美著 『ナーシンググラフィカ 呼吸・循環器障害』 (メディカ出版)				

科目名	看護病態論 内分泌	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目概要	看護病態論では人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その患者のニーズを満たし、回復を助けるためにはどうすれば良いのかを学ぶ。特にこの科目では内部環境を維持・調節するしくみ、つまり内分泌系を障害する代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。				
学習目標	1. 内分泌系の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 内分泌系の主な疾患の病態と主な検査・治療	講義 事前課題 個人ワーク	2H	専任教員	
	1)下垂体疾患 (事前課題：視床下部-下垂体の形態・機能) (1)下垂体腺腫	講義 グループワーク 小テスト	3H		
	2)甲状腺疾患 (事前課題：甲状腺・副甲状腺の形態・機能) (1)バセドウ病 (2)橋本病 (3)甲状腺腫	講義 グループワーク 小テスト	3H		
	3)副甲状腺疾患 (1)機能亢進症 (2)機能低下症				
	4)副腎疾患 (1)クッシング症候群 (2)アルドステロン症 (3)機能低下症	講義 グループワーク 小テスト	3H		
	5)代謝疾患：糖尿病の病態と主な検査・治療	講義 グループワーク 小テスト	3H		
筆記試験	試験	1H			
評価方法	筆記試験（80点）＋各小テスト5点×4回（20点）				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝（医学書院）				
参考文献	病気がみえる（3）第4版 糖尿病・代謝・内分泌 （医療情報科学研究所 著 メディックメディア） エビデンスに基づく 糖尿病・代謝・内分泌看護ケア関連図（中央法規）				



科目名	看護病態論血液・膠原アレルギー・感染症	単位数	1	時間数	15
講師名	病院医師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	<p>血液系、膠原アレルギー系の主な病気の成り立ちと検査・治療について学ぶ。血液・造血器疾患には、難病指定の疾患や悪性腫瘍など、原因が不明なもの、長期間にわたり苦痛を伴う治療を要する物が多い。アレルギー疾患は幅広い年代に罹患する。その症状の軽重はさまざまである。アレルギー疾患による医療機関の受診者数は、年々増加傾向にある。</p> <p>それぞれの代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。</p>				
学習目標	<p>1. 主な血液疾患の成り立ちと症状・検査・治療を理解する</p> <p>2. 主な膠原アレルギー疾患、感染症の症状・検査・治療を理解する</p>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<p>1. 血液疾患の成り立ちと症状、検査、治療</p> <p>1) 赤血球系の疾患</p> <p>2) 白血球系の疾患</p> <p>3) 異常タンパク血症</p> <p>4) 出血性疾患</p>	講義	7H	病院 医師	
	筆記試験	試験	1H		
	<p>2. 膠原アレルギー疾患・感染症の症状、検査、治療</p> <p>1) アレルギー疾患</p> <p>2) 膠原病</p> <p>3) 膠原病類縁疾患</p> <p>4) 感染症</p>	講義	6H	病院 医師	
筆記試験	試験	1H			
評価方法	<p>筆記試験 ①と②の平均値を評点とする。</p> <p>①血液系 ②膠原アレルギー系 各100点</p>				
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器、(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)</p>				
参考文献					

科目名	看護病態論 腎・泌尿器・女性生殖器	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目概要	看護病態論では、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その患者のニーズを満たし、回復を助けるためにはどうすれば良いのかを学ぶ。特にこの科目では、内部環境を維持・調節するしくみや生殖機能・乳房・腎臓・泌尿器を障害する代表疾患の成り立ちと回復を促進させる治療について理解する。				
学習目標	1. 腎・泌尿器・生殖器系の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する 2. 女性生殖器・乳房疾患の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	専任教員	
	1. 腎臓・泌尿器系の疾患の病態と主な検査・治療 1) 腎・泌尿器の主な疾患（腎不全、腎臓がん） 2) 腫瘍（膀胱がん 前立腺がん、前立肥大症） 3) 透析療法	形態・機能知識確認テスト 講義 小テスト	6H		
	2. 女性生殖器・乳房の疾患の病態と検査・治療 1) 生殖機能障害（月経異常・更年期障害） 2) 女性生殖器の疾患 （子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢腫）	形態・機能知識確認テスト 講義 小テスト	2H		
	3) 腫瘍（手術療法・薬物療法・放射線療法） ①子宮体癌・子宮頸癌・卵巣癌 ②乳がん	形態・機能知識確認テスト 講義 関連図作成 小テスト	3H		
	4) ライフステージに与える影響について考える	講義 小テスト 視聴覚教材	2H		
	筆記試験	終講試験	1H		
	振り返り	講義	1H		
評価方法	筆記試験 100点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院）				
参考文献	病気が見える Vol.8 腎・泌尿器 病気が見える Vol.9 婦人科・乳腺外科				

科目名	看護病態論 運動器・消化器	単位数	1	時間数	30	
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年	
科目概要	看護病態論では、各器官に障害が起きた時、どのような状態になるかを理解し、回復を助けるためにはどうすればよいのかを学ぶ。この科目では、骨・関節・筋肉系、消化器系を障害する代表的な疾患の原因、病態生理、症状、検査、治療、について学ぶ。					
学習目標	1. 骨・関節・骨格筋系の主な疾患の病態と検査・治療について理解する 2. 消化器系の主な疾患の病態と主な検査・治療について理解する					
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当		
	1. 骨・関節・筋肉系 1)骨折（大腿骨頸部骨折・骨盤骨折）、脱臼、捻挫	講義	4H	専任教員		
	2)末梢神経障害（橈骨神経麻痺、フォルクマン拘縮） 3)筋肉・腱・靭帯の損傷 （コンパートメント症候群、アキレス腱断裂、前十字靭帯損傷）	講義	3H			
	4)変形性疾患 （変形性膝関節症、変形性股関節症） 杖歩行、松葉杖歩行、歩行器歩行	講義・演習	3H			
	5)腫瘍（骨腫瘍） 6)四肢の切断術	講義	2H			
	7)脊椎疾患 （腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア） コルセット装着	講義	2H			
	筆記試験（運動器）	試験	1H			
	2. 消化器系の主な疾患の病態と主な検査・治療	講義 ワーク	2H		専任教員	
	1)食道の疾患		5H			
	2)胃・腸および腹膜の疾患		3H			
	3)肝臓・胆嚢の疾患		2H			
	4)膵臓の疾患		1H			
	事例学習		試験	1H		
	筆記試験（消化器）		講義	1H		
振り返り						
評価方法	筆記試験 ①と②の平均値を評点とする。 ①運動器 ②消化器 各100点					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)					
参考文献						

科目名	看護とリハビリテーション	単位数	1	時間数	15
講師名	病院理学療法士	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	対象の暮らしを守るためには、多職種との連携・協働が必要である。看護は1次予防から2次予防に関与する職業である。疾病・障害などにより生活上の問題を有する対象に対し、可能な限り日常生活活動（ADL）の自立と生活の質（QOL）の向上を図るリハビリテーションは身近な存在であるといえる。リハビリテーションについての理解を深め、対象の健康をともに支えるための看護について考える。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念・領域がわかる</li> <li>2. 障害論がわかる</li> <li>3. 様々な障害におけるリハビリテーションが理解できる</li> <li>4. リハビリテーションに関わる看護が理解できる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念</li> <li>2. リハビリテーションの領域 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育リハビリテーション</li> <li>2) 医療リハビリテーション</li> <li>3) 社会リハビリテーション</li> <li>4) 職業リハビリテーション</li> </ol> </li> <li>3. 障害論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICHD 機能障害、能力低下、社会的不利</li> <li>2) 障害者の心理</li> </ol> </li> <li>4. チームアプローチ</li> <li>5. リハビリテーションの展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動器系の障害</li> <li>2) 中枢神経系の障害</li> <li>3) 呼吸器・循環器系の障害</li> <li>4) 感覚器系の障害</li> </ol> </li> <li>6. リハビリテーション看護</li> </ol>	講義 演習	14H	病院 理学 療法士	
評価方法	筆記試験 100点			1H	
テキスト	リハビリテーション看護 南江堂				
参考文献					

科目名	気づきトレーニング	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	高度化、また地域へ移行が進む医療現場では、看護師の臨床判断能力の向上が求められる。看護の対象となる人々をどのように理解し、ケアを実践すればいいのか臨床判断モデル（「気づき」「解釈する」「反応する」「省察する」）を通して臨床判断能力を身につける。この科目は、「気づき」「解釈する」にフォーカスをあてている。				
学習目標	1. 臨床判断能力が理解できる。 2. 「気づき」「解釈」ができる。				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 臨床判断能力が求められる看護現場 1) 臨床判断能力が求められる背景と現代の教育 2) 看護を取り巻く現状	講義	2H	専任教員	
2. 臨床判断能力を育成する—思考をはぐくむ 1) 動画をつかって 「気づく」力にアプローチ授業 コンセプト：「排泄援助」、「清潔援助」 「食事援助」 2) 模擬患者をつかって 「気づく」力にアプローチ授業	シミュレーション演習	13H			
評価方法	シミュレーション演習のパフォーマンス評価 100点（動画 40点、模擬患者 60点）				
テキスト					
参考文献	三浦友理子他「臨床判断ティーチングメソッド」（医学書院）				

科目名	微生物学	単位数	1	時間数	15
講師名	病院臨床検査技師	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	微生物の特徴と生態に及ぼす影響を理解し、その対応方法を知る。				
学習目標	1. 微生物と病原微生物について知る 2. 微生物の人体に及ぼす影響について理解する 3. 感染予防の重要性について理解し、安全対策について知る				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 微生物の概念と変遷 2. 消毒・滅菌 3. 感染と予防 4. 免疫	講義	4H	病院 臨床検査 技師	
	5. ワクチン及び予防接種 6. 化学療法		2H		
	7. 細菌学的検査 8. 細菌学各論		2H		
	9. ウイルス学		2H		
	10. 真菌学		2H	病院 臨床検査 技師	
	11. 原虫学		2H		
評価方法	筆記試験			1H	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 (医学書院)				
参考文献					

科目名	薬理学	単位数	1	時間数	30
講師名	病院薬剤師	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の取扱い・管理について理解する。				
学習目標	1. 薬物の種類とその作用機序について学習する 2. 薬物の使用目的と方法について理解する 3. 薬物の副作用について理解する 4. 薬物の取扱いや管理について理解する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 総論 2. 薬理学各論 1) 抗感染症薬 2) 抗がん剤 3) 免疫治療薬 4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5) 末梢での神経活動に作用する薬物 6) 中枢神経系に作用する薬物 7) 心臓・血管系に作用する薬物 8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 9) 物質代謝に作用する薬物 10) 皮膚科用薬・眼科用薬 11) 救急の際に使用される薬物 12) 漢方薬 13) 消毒薬	講義	29H	病院薬剤師	
評価方法	筆記試験			1H	
テキスト	統計看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学（医学書院） 看護学生のための薬理学ワークブック（医学書院）				
参考文献					

科目名	栄養学	単位数	1	時間数	15
講師名	病院管理栄養士 病院摂食嚥下認定看護師	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	人間にとっての栄養の意義について認識し、食事療法の基本について理解する。				
学習目標	1. ライフステージにあった栄養素を理解する 2. 食事療法の実際について理解する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 栄養素の栄養的意味 2. ライフサイクルと栄養 3. 臨床栄養 1) 食事療法の意義 2) 治療食の種類と分類 3) 食事療法のすすめ方 4) 食事療法の実際	講義 調理実習	1H  13H	病院 摂食嚥 下認定 看護師  病院 管理 栄養士	
評価方法	筆記試験 100点			1H	
テキスト	統計看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 (医学書院)				
参考文献					



科目名	保健医療	単位数	1	時間数	30
講師名	外部講師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	保健福祉医療の現状から、健康における課題がわかり、包括的な保健医療活動を理解する。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の健康を保持増進していく必要性がわかる</li> <li>2. 拡大する人々の健康のニーズを理解する</li> <li>3. 保健医療福祉における問題とその背景を理解する</li> <li>4. 医学の発展の歴史と医療の変遷が理解できる</li> <li>5. 現代の医療の諸問題が理解でき、医の倫理と看護のあり方が考えられる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と健康のニーズ</li> <li>2. 医療経済高騰化への対応</li> <li>3. 施設内医療から地域医療へ</li> <li>4. 入院期間の短縮化と在宅医療の重視</li> <li>5. 保健・医療・福祉の連携</li> <li>6. 医療とは</li> <li>7. 医学の発達と歴史</li> <li>8. 新しい医療システム</li> <li>9. 現代医学と看護のあり方</li> </ol>	講義	29H	外部講師	
評価方法	レポート 筆記試験			1H	
テキスト	現代医療論（メヂカルフレンド社）				
参考文献					

科目名	公衆衛生	単位数	1	時間数	15
講師名	外部講師 専任教員	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	公衆衛生に関連する基礎知識や考え方を理解し、組織的な保健活動について学び看護の役割について理解する。				
学習目標	1. 公衆衛生の概要がわかる 2. 公衆衛生の仕組みがわかる 3. 集団の健康をとらえるための手法がわかる 4. 健康を守るシステムがわかる 5. 諏訪圏域における公衆衛生の実際がわかる				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 公衆衛生の概要 1) 公衆衛生とは 2) 公衆衛生の活動対象	講義	2H	専任教員	
	2. 公衆衛生の仕組み 1) 政策 2) 国と地方自治体の役割 3) 多職種との協働 4) 住民との協働		2H		
	3. 集団の健康をとらえるための手法がわかる 1) 疫学 2) 保健統計		2H		
	4. 健康を守るシステムがわかる 1) 感染症 2) 母子保健 3) 成人保健		2H		
	4) 高齢者保健 5) 精神保健 6) 障害者保健・難病保健		2H		
	7) 学校保健 8) 産業保健 9) 災害保健		2H		
	5. 諏訪保健福祉事務所の取り組み		2H	外部講師	
評価方法	レポート（事前課題） 筆記試験	1H			
テキスト	統計看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生（医学書院）				
参考文献	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）				

科目名	地域保健	単位数	2	時間数	45
講師名	外部講師 専任教員	実務経験	有	履修年次	3年
科目概要	臨地実習を通じ、個人の健康問題の解決を図ってきた。また、座学に併せて、地域を知る視点を学んできた。ここでは、地域の現状と課題を調査研究により見出すことを学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域保健の授業の内容・授業方法が理解できる</li> <li>2. 地域の健康を保持増進するための問題解決思考が理解できる</li> <li>3. 国・県・市町村までの施策とそれに関連する法律が理解できる</li> <li>4. 地域の特徴、保健福祉活動が理解できる</li> <li>5. 保健医療福祉活動の実際が体験できる</li> <li>6. 保健医療福祉活動を通し看護職の役割について考えられる</li> <li>7. 地域包括ケアとは何かがわかる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域における問題解決思考 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域を知る必要性</li> <li>(2) 地域をアセスメントする視点</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3. 地域の概要を知る-調査</li> <li>4. 必要と思われるシステムを考える</li> <li>5. 住民のニーズとシステムとの整合性を確認する</li> <li>6. 調査内容から看護師の役割を考える</li> <li>7. 資料をまとめる (パワーポイント)</li> <li>8. 発表・質疑応答を受けて看護師の役割を深める</li> </ol>	講義 グループワーク フィールドワーク 中間報告会 発表会 レポート他	45H	外部講師  専任教員	
評価方法	レポート				
テキスト					
参考文献	国民衛生の動向 長野県衛生年報				

科目名	社会福祉	単位数	1	時間数	30
講師名	社会福祉士	実務経験	有	履修年次	3年
科目の概要	保健医療における福祉の概念、社会福祉制度、社会保障について学び、社会資源の活用、社会福祉サービスの必要性を理解する。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の概念を理解する</li> <li>2. 社会福祉制度の概要を理解する</li> <li>3. 看護と社会福祉の関連を理解する</li> <li>4. 社会保障制度を看護活動に活用できる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度と社会福祉</li> <li>2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向</li> <li>3. 医療保障</li> <li>4. 介護保障</li> <li>5. 所得保障</li> <li>6. 公的扶助</li> <li>7. 社会福祉の分野とサービス</li> <li>8. 社会福祉実践と医療・看護・歴史</li> </ol>	講義	29H	社会福祉士	
評価方法	筆記試験 100点			1H	
テキスト	統計看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)				
参考文献					

科目名	看護関係法規	単位数	1	時間数	30
講師名	外部講師 社会福祉士 専任教員	実務経験	有	履修年次	3年
科目の概要	保健医療福祉の中の法律を学び、看護師の責任・義務について法律との関係を理解する。				
学習目標	1. 看護職に必要な法規について理解する 2. 法規を通して、看護職の果たす役割を自覚する				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 法規の概念	講義	6H	専任教員	
	2. 医事法規				
	3. 薬務法規		2H	外部講師	
	4. 保健衛生法規		4H		
	5. 福祉法規		2H		
	6. 労働法規		2H	外部講師	
	7. 環境法規		2H	外部講師	
	8. 福祉関係法規		2H	社会福祉士	
	9. 関係法規まとめ		確認テスト	9H	専任教員
評価方法	筆記試験		1H		
テキスト	統計看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令（医学書院）				
参考文献	看護をめぐる法と制度 健康支援と社会保障④（メディカ出版） 関係法規（メヂカルフレンド社） 公衆衛生がみえる（メディックメディカ） 看護のための法学 自律的・主体的な看護をめざして（ミネルヴァ書房） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 看護の倫理綱領（日本看護協会）				